

自治区連会報

第60号

編集発行人

下妻市自治区長連合会
広報編集委員会

市民協働のまちづくりのために

下妻市副市長 齋藤 章

平成三十一年四月に副市長に就任以来、自治区長連合会の皆様をはじめ、各地域の自治区長の皆様には大変お世話になっております。改めて厚く御礼申し上げます。

就任時、砂沼では桜が満開で、そのあとを追うように梨の花が咲き、五月には小貝川、鬼怒川の河川敷がポピーでいっぱいになるなど、下妻は文字通り「花のまち」であると実感したことを覚えています。

この自然豊かなまちで、地域の皆様とともに下妻市の発展のために力を尽くしてまいりたいと考え、今日まで努めてきました。



しかしながら、自然に囲まれ、静かで穏やかなまちの様子は新型コロナウイルス感染症のため一変しまし

た。社会経済情勢は停滞し、市民生活も様々な制限を受け、現在もエネルギーや物価の高騰、円安など私たちの生活は大きな打撃を受けていることは言うまでもありません。

こうしたことへの対応として、プレミアム付き商品券の販売や水道料金等の免除など、市民生活を支援する各種施策を展開しているところであります。

また、昨今では、地球温暖化の影響からひとたび災害が発生すると大規模災害になることもしばしばあることから、日頃から自然災害への備えも必要であると考えています。

被害を最小限に抑えるために、自分の身を守る「自助」と地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」、行政による「公助」の連携が大切になります。生活スタイルの多様化や人間関係の希薄化から「共助」の

下妻市表彰式において一般功労表彰を受賞

10月18日、下妻市役所において、令和4年度下妻市表彰式が行われ、代表区長または自治区長を通算10年以上務め退任された方が、一般功労表彰を受賞されました。おめでとうございます。

※敬称略

※()内は、代表区、自治区の名

一般功労表彰 (地方自治の進展)

◆代表区長

栗野 英武 (栗山) 1列目1番左

小野塚茂雄 (大宝) 1列目1番右

◆自治区長

長谷川 弘 (半谷下1) 2列目左から3番目



強化には課題も多くあります。課題を解決していくことは容易なことではありませんが、安心・安全

なまちづくりのため、地域をよく知る自治区長の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

自治会活動に参加しましょう！

大園木 甲(かぶと)神社 — 千代川支部 —

天仁2年(1109年)黒須の里に宗任神社創建にあたり宗任公愛用の「青龍」と名づけし甲冑の「逆角の兜」。青龍は、雷神で雨をもたらす農業の神であったことから、黒須の里より東方の樹木が茂る大園木の里(現在の大園木)に祀る甲明神と号した(現在の甲神社)。

また、甲神社創建時から、鯨の里の鎧神社と二社一対の神様として近隣の人々より五穀豊穰・風を掌る神・雨をもたらす神・疾病封じの神として崇め信仰された。

現在は毎年11月に祭礼が行われ、大園木の守護神として衣食住・家内安全など生活全般のご利益があると信仰されています。



総合防災訓練に参加して — 下妻支部 —



昨年11月27日、下妻中学校を会場に、総合防災訓練が開催されました。人命救助訓練や消防隊員の指導のもと搬送訓練を体験しました。

災害時に、地域住民で助け合う「共助力」が低下。コロナ禍により、住民交流が少なくなった影響が考えられるという。

家族や町内の人たちを自分たちで守るためにも、地域住民が自助・“町助”を意識し、頼み事ができる関係性を築く必要があると思いました。今回の総合防災訓練を本宿本城自主防災組織に生かしたいと思えます。

比毛花の会の活動 — 大宝支部 —

下妻市から委託を受け運営している比毛花の会の活動は、小貝川フラワーベルトの一翼を担っています。寒さに耐え忍び、冬から春先まで咲きほこるパンジーの可憐な花びらは、道行く人々の心を和ませ、夏から秋口に咲く黄色のマリーゴールドは、その花言葉のように、人々の健康を願っています。

コロナ禍の中、マスク姿での花植え作業ですが、20年余りの継続の力は、町内の親睦と融和を育み、コロナ禍を乗り越える力をも生み出しています。

*黄色のマリーゴールドの花言葉:「健康」



福代地サマーフェスタ in 2022 — 騰波ノ江支部 —



昨年7月23日に、お囃子発表会(福代地サマーフェスタ in 2022)が開催されました。

天気は快晴、朝から気温が30度を超えるとても暑い日でした。

郷土の伝統芸能であるお囃子を子どもたちに継承するため、助成金(赤い羽根共同募金地域福祉助成事業)を活用し、大太鼓の皮を張り替えました。

何回もの練習を重ねてこの日を迎えた子どもたち。多くの皆さんの前で、立派なお囃子を発表することができました。

自主防災組織を作りましょう!

稲荷神社のしめ縄づくり — 総上支部 —



西古沢地区では、氏子の3人が、しめ縄づくりのための田植えを5月に行い、8月に穂が出る前に稲刈りをして藁を干し乾燥させます。昨年11月21日にその藁を濡らし木槌で叩いて柔らかくし、次の日、年上の人々の指導を受けながら、鳥居に飾る分と御社2か所分、合計3本のしめ縄を作りました。飾り付けは、地区の皆さんで協力して行いました。

翌11月23日には、地区の皆さんが集まり、神主さんにもきていただき、農作物などを奉納して例大祭が行われました。

金銅阿弥陀如来三尊像 — 高道祖支部 —

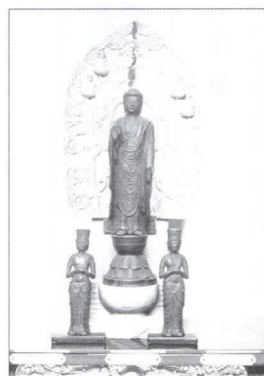
高道祖にある常願寺の本尊として安置されている「金銅阿弥陀如来三尊像」は、古来、雨乞いの阿弥陀三尊として知られています。

本寺も、他の歴史ある建物の例にもれず、幾つかの受難がありました。

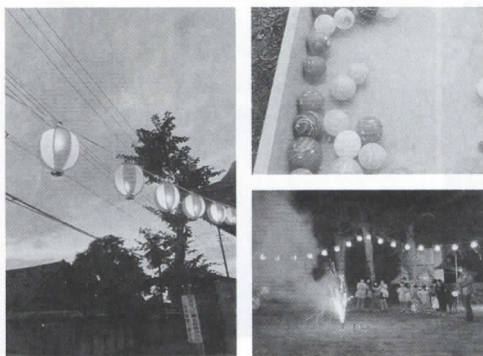
その中の「天狗党の兵火」により、古文書などは全て焼失しましたが、この三尊像は、当時の住職の機転により難を免れたといわれています。

御本尊・脇侍観音・勢至ともに金銅製であり、善光寺式三尊像です。

(本尊は県指定文化財であり、一般未公開です。)



コロナ禍の夏祭り — 上妻支部 —



平方地区では、毎年夏に開催している祭りが中止となっていました。今年度も自治会としての夏祭りの開催はできませんでしたが、PTAが中心となり子供たちのために形を変えて夏祭りを開催しました。

市指定の無形文化財である平方囃子の曲をBGMに、射的・ヨーヨー釣り・わたあめ・かき氷などを行いました。久しぶりのお祭りの雰囲気、子供から大人まで笑顔が溢れ、とても楽しんでいる様子でした。

来年度はコロナ終息を願って、夏祭りだけでなく、今までの行事が開催できるよう、地域の繋がりを大切にしていきたいと思ひます。

自治会の財産を見直そう ~自治会所有財産の不動産登記について~

自治会の中には、皆さんが集まる公民館やコミュニティセンターなどの建物とその土地、あるいは、祭りや早苗饗(さなぶり)のための集落近くの田んぼなど、不動産を所有する自治会があります。

一方、不動産を所有するためには、不動産登記の手続きが必要です。かつては自治会名義での登記ができなかったため、代表者などの個人名で登記を行っていた自治会があり、相続などでトラブルの原因になっていました。しかし、法律の改正により、今では自治会

名義での登記が可能です。

財産を管理することは活動の第一歩です。改めて自治会の財産を見直し、円滑な自治会活動に取り組みましょう。

問：市市民協働課 43-2114

※不動産登記申請は法務局となります。また、登記申請の代行は司法書士にご相談ください。



自治会活動に参加しましょう！

区長と市長との対話集会を実施しました

十月一日、八日の二日間、各中学校区を単位に「区長と市長との対話集会」が実施され、三十七名の代表区長が参加しました。

各会場とも、地域に身近な課題についての要望・提案はもとより、市内全域、市政全般にわたる質問・提案も出されるなど、非常に活発な意見交換の場となりました。
主な質問は次のとおりです。

- 【下妻中学校区】
- 空き家対策について
- 自治区加入率について
- 募金について
- 消防団について
- サイクリングロードについて
- スタンドアップパドルボートレースについて

【東部中学校区】

- ごみの分別について
- ごみの集積所について
- 自主防災組織について
- 防災意識について
- 下水の管理について
- 道路の補修について

【千代川中学校区】

- ふるさと納税について
- 用水路脇の除草について
- 防火水槽について
- 新規転入者の区長への通知について
- 千代川公民館ホールの音響について
- 防災について
- 防犯カメラについて
- 千代川庁舎について
- シモンちゃんバスについて

活動日誌

◆令和4年◆

- 10月1日(午前) 市長との対話集会(下妻中学校区)
- 10月1日(午後) 市長との対話集会(東部中学校区)
- 10月8日 市長との対話集会(千代川中学校区)
- 11月17日 正副会長会議・役員会・広報編集委員会
- 12月20日 県自治会連合会第2回理事会、情報交換会

◆令和5年◆

- 1月25日 自治区連会報(第60号)発行
- 2月 県自治会連合会「講演会」(桜川市) ※予定
- 2月 正副会長会議 ※予定
- 3月 役員会・理事会 ※予定



編集後記

新型コロナウイルスも次から次と変異を重ね、第7波となるオミクロンB A 5株まで流行してしまいました。さらに新たな変異株の第8波が起り、昨年十二月時点で、一月中旬がピークになると専門家は予想しています。

マスク着用、手指消毒、三密を避けるなどの行動制限もあり、祭りやいろいろなイベントを中止せざるを得なくなっています。日常生活においても、常に、マスクを着けているか、人と話をする時は距離が保たれているか、など気遣いが多く、周りを気にせざるを得ない状況が続いています。

昨年九月には、新型コロナウイルス感染症の内服治療薬が医師の処方箋により手に入るようになりましたし、国産のコロナウイルスワクチンの治験結果も良好なようです。しかしながら、同時に、外国人旅行者の受け入れや行動制限の緩和などにより、再び感染者が増えています。

今年インフルエンザも流行すると予想されていますが、早く感染が収まり、今までの生活に戻れるよう祈ります。



自主防災組織を作りましょう！